

研究課題名	がん遺伝子パネル検査結果に基づいた難治癌の遺伝子異常と治療法に関する研究
研究の意義・目的	がん遺伝子パネル検査の臨床的意義やがん遺伝子パネル検査の有効性を明らかにすることが目的で、新規のがん治療法や癌診断マーカーが見いだせることが期待されます。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～2029 年 3 月 31 日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2019 年 6 月 1 日以降に全国の病院（大阪公立大学病院を含む）「がん遺伝子パネル検査」を受けられ、ご自身の情報やゲノムデータ等を日本の「がんゲノム情報管理センター」へ提供することについて同意し、かつ、学術研究や医薬品等の開発目的での利用を希望する第三者に提供することについても同意された方が対象です。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	<p>最近の医学の進歩に伴いがんの治療成績が向上してきました。最近、癌治療法を広げる目的にがん遺伝子パネル検査が行われるようになりました。がんゲノム情報管理センターに集約・保管されているがん遺伝子パネル検査情報を利活用することがさらなる医療向上に貢献すると考えます。「がんゲノム情報管理センター」のデータベースから本学の症例を抽出し、がんゲノム情報管理センターに集約・保管されている全国データと検討・比較し、パネル検査の意義や有効性を明らかにするため診療情報を研究に使わせていただきたく思います。</p> <p>下記の診療情報を、匿名性を持って研究に当たります。 診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、予後、がん遺伝子パネル検査データ、CT 画像、病理診断】</p>
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は大阪公立大学癌分子病態制御学のみで行います。 【研究責任者】大阪公立大学大学院医学研究科 癌分子病態制御学 八代正和
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 癌分子病態制御学 (担当者氏名) 八代正和 電話番号：(06) 6645-3835 メールアドレス： i21496f@omu.ac.jp